

デジタル田園都市国家構想交付金に係る事業評価

◆デジタル田園都市国家構想交付金 地方創生推進タイプ

資料2-1

（眠れる労働力を発掘！富士宮プロジェクト）

◆デジタル田園都市国家構想交付金 デジタル実装タイプ

資料2-2

担当課による自己(内部)評価【令和6年度分】について

実績の数値を基に、各事業について担当課での自己(内部)評価を表示しています。

評価指標	ドロップダウンリスト	説 明
①達成度(進捗度)	◎…順調に推移(8割以上) ○…予定どおり推移(5割以上) △…取組が遅れ気味(5割未満)	事業の進捗状況を、3段階で評価
②有効性(総合戦略基本目標への貢献度)	◎…非常に効果的だった ○…効果的だった △…効果が限定的だった	取組事業が総合戦略基本目標に効果的だったか、3段階で評価
③取組の必要性	◎…追加・発展 ○…継続(現状維持) △…見直し	上記①・②の評価を踏まえて、取組事業の今後の必要性について3段階で評価
④今後の方向性・展開	なし	今後の取組の方向性や将来的な展望
⑤事業の課題	なし	取組を進めるうえでの課題

令和6年度 デジタル田園都市国家構想交付金実施事業 一覧表

資料2-1

◆デジタル田園都市国家構想交付金 地方創生推進タイプ 令和6年度事業:補助率1/2 交付確定額:4,502,300円

【単独事業】

働き方改革(眠れる労働力を発掘！富士宮プロジェクト R6～R8) (単位:円)

人口減少が避けられない中、眠れる労働力(育児者、介護離職者、高齢者、外国人、引きこもり者、生活困窮者など)が地域社会とつながり、その能力を発揮できる社会を構築する。多様な人材・働き手と企業・団体等の受け入れ側のミスマッチを解消し、働き手は「自由な時間にいつでも働ける」状態、企業や団体等は、人手不足や担い手不足を補うことで、「誰一人取り残さない」市民全員が地域社会で活躍できている状態を目指す。

資料番号	事業	事業内容	費目	予算額	決算額	市の総合戦略 基本目標		国の基本目標	部	課
1	中小企業人材確保事業	事業承継支援ツール	委託料	2,600,000	2,513,500	1 4	「住んでよし」 「働いてよし」	I-1 地方に仕事をつくる	産業振興部	商工振興課
		就業支援サイト構築	委託料	1,000,000	999,240					
		オンラインインターシップ事業	委託料	5,500,000	5,491,860					
		合計額				9,004,600				
		交付確定額				4,502,300				
						有識者会議における評価				
						【有識者会議における評価】 A A: 総合戦略の推進に有効だった B: 総合戦略の推進に有効とは言えない				

令和6年度 デジタル田園都市国家構想交付金に係る事業効果検証シート

事業分野 (大項目)	働き方改革	分野 (詳細)	②ワークライフバランスの実現等
事業名	眠れる労働力を発掘！富士宮プロジェクト		

KPI(重要業績評価指標) * 計画(上段)／実績(下段)

重要業績評価指標	単位	実施前 (R5年度)	R6年度	R7年度	R8年度
就労準備支援事業による 一人当たりの労働生産性 (*1)	円	0	4,290 4,466	5,470	9,260
福祉コーディネーターが企 業・団体とマッチングさせた 人数(*2)	人	16	20 18	24	28
市公式求人サイトにおける 就業マッチング件数	件	0		466	2,345

(*1)就労支援対象者の1人当たりの年間労働賃金の平均額

(*2)就労支援対象者のうち就職者数

1 基本情報

担当事業名	中小企業人材確保事業				
位置付け	基本目標1 「住んでよし」の安全・安心なまちを創造				
	基本目標4 「働いてよし」の活力あるまちを創造				
担当課	商工振興課	担当者名	望月奈津子	内線	2474

2 事業の目的

デジタルの力を活用した各種サイトを立ち上げることで、市内中小企業の魅力を発信し、今まで情報が行き届かなかった若者などに発信することで将来の担い手を確保する。
--

3 事業の内容

主に東京などの首都圏へ転出した学生を対象に、中小企業のインターンシップや求職情報などオンラインを用いて発信するとともに、年齢や体調不良などで廃業を検討する事業者と、継続を希望する後継者をオンラインでつなぎ、新たな担い手を確保するための事業承継ツールを構築する。
--

4 取組状況

R6年度	主に大学生を対象にオンラインにてインターンシップを実施し若年層への情報発信を行ったほか、それ以外の年代も対象とした企業情報サイトを制作した。また、事業承継に関する事業者アンケートを実施するとともに、事業承継マッチングサイトを構築した。
------	---

5 事業費(単位:円)

	費目	予算額	決算額	(国)交付金額
R6年度	委託料	9,100,000	9,004,600	4,502,300
R7年度				
R8年度				



6 実績

【ビジネスコネクトふじのみや】

具体的成果数値	単位	実施前 (R5年度)	R6年度	R7年度	R8年度
オンラインインターンシップ参加企業数	件	19	19		
事業承継マッチングサイトへの掲載件数	件	0	3		

7 事業効果

大学が立地しない富士宮市では高卒や中途の採用が主流であるが、本事業を機に大学生との接点を持った事業者があった。また、オンラインでイベントを実施し、webでの採用活動に活かすことのできるノウハウを取得することができた。参加学生も全国各地となっており、富士宮市内の事業者の周知に寄与した。また、事業承継に関しては、市内事業者のうち2,500者を対象にアンケートを実施したことにより、事業承継に対する事業者の考えを把握することができた。さらに、マッチングサイトの活用を含む事業承継支援について興味のある事業者(30者)を中心にヒアリングを行うことができ、3件をサイトへの掲載につなげることができた。
--

8 担当課による自己(内部)評価【令和6年度分】

評価指標	評価	評価判断理由
①達成度 (進捗度)	○…予定どおり推移(5割以上)	大学生向けのオンラインインターンシップを開催し、また、それ以外の年代に向けた企業情報サイトを制作した。事業承継に関しても、アンケートを実施し、サイトへの掲載も見込み件数を達成することができた。
②有効性(総合 戦略基本目標へ の貢献度)	○…効果的だった	求職者との接点を持つ場となったほか、企業のノウハウの蓄積となった。また、事業承継をしたい者(新しく事業を始めたい者も含む)と承継者を求める者とが会えるきっかけを作ることができた。
③取組の 必要性	○…継続(現状維持)	人手不足解消のため。企業の採用力強化と求職者との接点創出の取り組みを今後も続けていく必要がある。事業承継に関しても、アンケート結果に基づきさらにヒアリングを進めることで、サイトへの掲載者及びマッチングの件数増が期待できる。
④今後の 方向性・展 開		コロナ禍で主流となったオンラインでのインターンシップのみならず、現地型も取り入れ大学生との距離を密接にしていける。事業承継に関しては、業種を絞ってアプローチ(アンケートの実施、ヒアリング等)をしている。
⑤事業の 課題		深刻な人手不足の中、若い世代のみならず、幅広い世代の求職者に情報を届ける必要がある。事業承継はデリケートな内容のため、承継を望む者が現れた場合でも、承継まで順調に進めるには、関係各機関の協力も必要と考えられる。

令和6年度 デジタル田園都市国家構想交付金実施事業 一覧表

資料2-2

◆デジタル田園都市国家構想交付金 デジタル実装タイプ タイプⅠ 令和6年度事業:補助率1/2

【単独】

交付確定額:711,150円

富士宮市市民文化会館予約システムをインターネット上に公開、運用することで、利用者（市内外の利用希望者）がパソコン、スマートフォン、タブレットなどで、富士宮市市民文化会館の予約が可能となる。

（単位：円）

資料番号	事業	事業内容	費目	予算額	決算額	市の総合戦略 基本目標		国の基本目標	部	課
1	富士宮市市民文化会館施設予約システム導入事業	【富士宮市市民文化会館予約サービス】 公共施設の空き状況の確認 公共施設の利用申請	委託料	1,925,000	1,386,000	1	「住んでよし」	I-4魅力的な地域をつくる	教育部	文化課
			使用料	73,000	36,300					
合計額					1,422,300					
交付確定額(合計額×1／2)					711,150					

【地域間連携】(富士市・富士宮市)

交付確定額:834,570円

消防指令室でスマートフォンの機能を活用した映像通報システムを導入・運用することにより、災害等の被害の軽減、傷病者の救命率の向上を図る。

（単位：円）

資料番号	事業	事業内容	費目	予算額	決算額	市の総合戦略 基本目標		国の基本目標	部	課
1	映像通報システム導入・運用事業	【映像通報システム】 GPS測位位置情報の取得 動画ファイルの送信、映像の共有 等	委託料	1,392,000	1,390,950	1	「住んでよし」	I-4魅力的な地域をつくる	消防本部	警防救急課
			使用料	278,000	278,190					
合計額					1,669,140					
交付確定額(合計額×1／2)					834,570					

有識者会議における評価

A

【有識者会議における評価】口

A: 総合戦略の推進に有効だった

B: 総合戦略の推進に有効とは言えない

令和6年度 デジタル田園都市国家構想交付金(デジタル実装タイプ タイプⅠ)に係る事業効果検証

事業名	公共施設予約システム導入事業				
KPI(重要業績評価指標)		*計画(上段)／実績(下段)			
重要業績評価指標	単位	実施前 (R5年度)	R6年度	R7年度	R8年度
施設予約件数	件	—	システム導入 —	800	1,200
利用者満足度(5点満点)	点/人	—	システム導入 —	3.5	4.0

1 基本情報

担当事業名	公共施設予約システム導入事業				
位置付け	基本目標1 「住んでよし」の安全・安心なまちを創造 (9) 効果的・効率的な行政運営				
担当課	文化課	担当者名	佐野久美子	内線	2631

2 事業の目的

これまで、富士宮市民文化会館を予約する際は、直接施設へ出向き申請を行わなければならなかったが、予約システムを構築することで、施設の空き状況の確認や施設予約申請が時間・場所に関係なく可能となり、市民の利便性を向上させる。

3 事業の内容

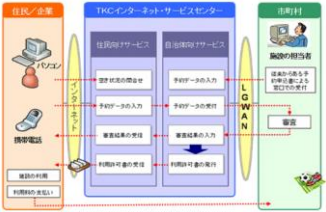
富士宮市民文化会館予約システムをインターネット上に公開、運用することで、利用者がパソコン、スマートフォン、タブレットなどで、施設の予約、利用状況の確認が可能となる。
--

4 取組状況

R6年度	施設予約システムを導入し、令和7年度の稼働に向け準備を進めている。
R7年度	
R8年度	

5 事業費(単位:円)

	費目	予算額	決算額	(国)交付金額
R6年度	委託料等	1,998,000	1,422,300	711,150
R7年度				
R8年度				



【予約システム運用イメージ図】

6 事業効果

予約システムの導入によって、予約情報や利用団体等がシステム内で一元管理されるため、予約台帳管理の手間が省け、ペーパーレス化及び職員の負担が軽減される。 今後、予約状況の確認や予約申請がオンラインで可能になるため、窓口に行く手間、待ち時間が短縮され、利用者の満足度が向上する。
--

7 担当課による自己(内部)評価【令和6年度分】

評価指標	評価	評価判断理由
①達成度(進捗度)	○…予定どおり推移(5割以上)	予定どおり、施設予約システムを導入した。
②有効性(総合戦略基本目標への貢献度)	△…効果が限定的だった	令和7年度のシステム稼働に向けて準備を進めている。
③取組の必要性	○…継続(現状維持)	市民文化会館リニューアルオープン延期に伴い、システム稼働が予定より遅れるため、利用者への周知、サポート体制を整える必要がある。
④今後の方向性・展開		利用者の利用促進を促すよう広報・周知を行う。 システムをスムーズに利用できるようサポート体制を整える。 キャッシュレス決済の導入(指定管理者による)
⑤事業の課題		新しいシステムに慣れるまでに時間を要する。

令和6年度 デジタル田園都市国家構想交付金(デジタル実装タイプ タイプⅠ)に係る事業効果検証

事業名	映像通報システム導入・運用事業				
KPI(重要業績評価指標)			* 計画(上段)／実績(下段)		
重要業績評価指標	単位	実施前 (R5年度)	R6年度	R7年度	R8年度
ショートメッセージの配信回数	回	33	35 96	40	50
救命講習での活用	回	0	12 12	14	16
救命率	%	11.1	8.8 10.7	9.2	10.0
有効的な胸骨圧迫の実施率	%	57.7	53.0 62.3	56	60
映像通報システムの満足度(5点満点)	点	0.0	4.0 4.7	4.5	5.0

1 基本情報

担当事業名	映像通報システム導入・運用事業				
位置付け	基本目標1 「住んでよし」の安全・安心なまちを創造 (1) 安全・安心に向けた取組				
担当課	警防救急課	担当者名	由比藤正樹	内線	0545-55-2857

2 事業の目的

通報者が映像を送信することで、言葉では伝えにくい現場の詳細を明確に消防へ伝えることにより、より迅速な初動対応を行うことができ、救命率を向上させる。

3 事業の内容

映像通報システムの導入により、映像共有、位置情報の取得、応急手当データファイルの送信などを可能とする。

4 取組状況

R6年度	システムを導入し運用を開始した。
R7年度	
R8年度	

5 事業費(単位:円)

	費目	予算額	決算額	(国)交付金額
R6年度	委託料等	1,670,000	1,669,140	834,570
R7年度				
R8年度				



映像通報システム使用時の指令センター

6 事業効果

・場所を説明できない通報者に対してスマートフォン端末のGPS測位位置情報を取得することで、早期に災害現場を特定することができた。
・現場映像を受信し出動隊と共有することで、現場到着前に災害の状況を把握することができた。
・救命率及び有効的な胸骨圧迫の実施率の向上がはかれた。

7 担当課による自己(内部)評価【令和6年度分】

評価指標	評価	評価判断理由
①達成度 (進捗度)	◎…順調に推移(8割以上)	5つ設定したKPIについて、すべて目標を達成することができた。
②有効性(総合 戦略基本目標への 貢献度)	◎…非常に効果的だった	従来の講座(救急講習)の内容に加えて実施したことにより、市民及び職員に向けて救命に対する意識の高揚を図ることができた。
③取組の 必要性	○…継続(現状維持)	想定していたよりも多くの事案で活用した。救命率及び有効的な胸骨圧迫の実施率目標を達成することができた。
④今後の 方向性・展 開	今後も継続して使用する。機能については、パッケージのシステムのため追加、修正はできないが、要望がある場合はシステム提供事業所に伝え改良を促していく。	
⑤事業の 課題	特定の人を対象としていないため、広く広報を実施する必要がある。令和6年度は、市広報紙、ホームページへの掲載、消防のイベント等を利用して広報を行ったが、より効果的な利用媒体を検討していく。	